

総監統率方針「強靱な東部方面隊の創造」
総監要望事項「一隅を照らせ」

陸上自衛隊東部方面隊広報紙
発行所：方面総監部広報室
住所：東京都練馬区大塚学園町
専用線：8-37-2446



令和8年2月25日 第1093号

- 方面 第一線救護競技会 (1面)
- 1師団 富崎師団長 着任行事 (2面)
- 12旅団 林野火災災害派遣 (3面)
- 1施設団 団戦技競技会 (4面)
- 関東補処 逢磨の開眼 (4面)
- 東混団 隊内生活体験支援 (5面)

第一線救護競技会を開催

34普 1普 1師付 30普が各部門で優勝

方面隊は令和7年12月9日から11日までの間、東部方面衛生隊修練館において、第一線救護競技会を実施した。本競技会は38個部隊、選手・監督合わせて182人が参加し、衛生科職種部隊だけではなく、方面管内の全職種部隊が、競技会形式により救護能力を競った。



心臓蘇生を行う第1普通科連隊の隊員



救護を行う競技者と、状況付与・評価を行う統裁部

方面総監部幕僚副長(防衛)が離任 竹内将補 防衛研究所副所長へ

総監部は2月5日、朝霞駐屯地において防衛研究所副所長(中々)へ栄転する竹内前幕僚副長(防衛)の見送りを行った。竹内前幕僚副長(防衛)は最後の挨拶で感謝の言葉を述べるとともに、歌とハートワを披露し、総監部隊員より盛大な拍手を受け駐屯地を後にした。



見送りを受ける竹内前幕僚副長

参加者は患者を救うことに全力を尽くし、現場の安全確認、全身観察、止血処置、継続的な声掛け等、考えられる限りの技術を駆使し、これまで積み上げてきた訓練成果を遺憾なく発揮した。競技の結果、衛生科の部は第34普通科連隊、諸職種は第1普通科連隊が優勝した。



上級部隊相談員が集合訓練メンタルヘルス態勢を維持・向上

方面隊は令和7年12月2日から5日までの間、上級部隊相談員集合訓練(養成)を実施した。本訓練は上級部隊相談員指定予定者等に対して、平素から各種行動時の持続的ストレス対処法及び修事ストレス対処法等に関する助言を行うための必要な識能を付与し、部隊のメンタルヘルス態勢の維持・向上に寄与した。訓練には、師団の他、方面下各部隊から24人の隊員が参加した。

競技項目は当班勤務中に心肺停止患者が発生し、それを2人で心肺蘇生法を用い1救護するものと、第一線において敵と交戦中に複数の負傷者が発生し、それらを同部隊の隊員もしくは同行救護員が2人で協力し救命するというものであった。参加部隊は衛生科の部、諸職種の部A、第一線救護衛生員の所在部隊、練護衛生員未所属部隊、混成の部に分け評価した。

方面隊は令和7年12月2日から5日までの間、上級部隊相談員集合訓練(養成)を実施した。本訓練は上級部隊相談員指定予定者等に対して、平素から各種行動時の持続的ストレス対処法及び修事ストレス対処法等に関する助言を行うための必要な識能を付与し、部隊のメンタルヘルス態勢の維持・向上に寄与した。訓練には、師団の他、方面下各部隊から24人の隊員が参加した。

訓練は、連日大隊等における隊員への指導法、各種行動時の疲弊管理の重要性を学び、部隊隊員に対する指導能力の向上を図ることを目的として実施された。加えて部長に對するメンタルヘルスに関する助言を行うための必要な識能を付与し、部隊のメンタルヘルス態勢の維持・向上に寄与した。訓練には、師団の他、方面下各部隊から24人の隊員が参加した。

参加者からは「朝礼や休暇前教育を利用して自己管理技法や解除ミーティングについて普及する」とともに、日頃から隊員に積極的に向き合い、相相談しやすい環境を醸成していきたいなど、今後の部隊のメンタルヘルス関係者として部隊における取組を示された。

戦士ストレス管理「修事ストレス対処法」といった講義及びロールプレイによる対応力の向上に加え、東部方面隊総合メンタルヘルス施策に基づき、自己管理技法向上及び組織でのストレス対処法である解除ミーティングを学び、その後に行われた指導法実習を通じて部隊への普及教育を実施することができた隊員の養成を行った。

方面隊は令和7年12月2日から5日までの間、上級部隊相談員集合訓練(養成)を実施した。本訓練は上級部隊相談員指定予定者等に対して、平素から各種行動時の持続的ストレス対処法及び修事ストレス対処法等に関する助言を行うための必要な識能を付与し、部隊のメンタルヘルス態勢の維持・向上に寄与した。訓練には、師団の他、方面下各部隊から24人の隊員が参加した。

方面隊は令和7年12月2日から5日までの間、上級部隊相談員集合訓練(養成)を実施した。本訓練は上級部隊相談員指定予定者等に対して、平素から各種行動時の持続的ストレス対処法及び修事ストレス対処法等に関する助言を行うための必要な識能を付与し、部隊のメンタルヘルス態勢の維持・向上に寄与した。訓練には、師団の他、方面下各部隊から24人の隊員が参加した。

最優秀

東部方面隊 写真・動画コンテスト

写真の部 1普連 原2曹
動画の部 1通大 吉原2曹



受賞作品の講評をする審査員(プロカメラマン 小見 哲彦氏)



写真の部 最優秀 1普連 原2曹



表彰式後に実施した記念撮影



動画の部 最優秀 1通大 吉原2曹

受賞作品は方面隊SNSで逐次発信
方面隊は広報担当者等の写真・動画の撮影技術を確保するとともに、隊員の意欲の増進を図り、撮影技術の向上及び各種広報活動の資を得ることを目的として、令和7年度東部方面隊写真・動画コンテストを実施した。コンテストは東方面内に所在する部隊員を対象として、令和7年1月から11月の間に撮影された作品の応募により行われ、写真の部では方面隊で活躍する部隊・隊員の今、この瞬間をテーマに125作品の中から7作品が、また動画の部では「躍動する部隊」隊員の中から4作品が部外審査員による審査でそれぞれ選出された。1月23日には総監部において表彰式が実施され、総監から東方面隊支隊 特選 小川2曹、第1師団司令部 最優秀 吉原2曹、第1普通科連隊 最優秀 松田曹長、第1普通科連隊 最優秀 小川2曹、第1普通科連隊 最優秀 吉原2曹、第1普通科連隊 最優秀 陶山2曹、第1普通科連隊 最優秀 富田曹長、第1普通科連隊 最優秀 高田3曹、第1普通科連隊 最優秀 廣川2曹、第1普通科連隊 最優秀 原2曹、第1普通科連隊 最優秀 竹井3曹、第1普通科連隊 最優秀 廣川2曹、第1普通科連隊 最優秀 原2曹

デジタル版あづまのご案内

東部方面隊は今後DX(デジタルトランスフォーメーション)化を進めてまいります。東部方面隊広報紙「あづま」はスマホやパソコンでいつでも見ることができるデジタル版でご覧になることができますので、是非ご覧ください。



富崎陸将が第43代師団長に着任

第1師団

第43代 第1師団長 富崎 隆志

生年月日 昭和43年3月21日
 出身地 山口県
 学歴等 法政大学（平成4年3月卒業）
 自衛隊生徒（第29期）

主要経歴

平成27年8月	西部方面通信群長	（健 軍）
平成29年3月	陸上幕僚監部人事課人事計画課長	（市ヶ谷）
平成31年4月	自衛隊大阪地方協力本部長	（大 阪）
令和 2年8月	北部方面總監部幕僚副長	（札 幌）
令和 4年3月	高等工科学学校長兼ねて武山駐屯地司令	（武 山）
令和 5年4月	第11旅団長	（真駒内）
令和 6年3月	東部方面總監部幕僚長兼ねて 朝霞駐屯地司令	（朝 霞）
令和 7年8月	防衛研究所副所長	（市ヶ谷）



栄誉礼を受ける富崎陸将

「二所懸命」を要望事項に師団精強化を目指す
 第43代第1師団長に富崎 隆志（ふさき たかし）陸将が2月6日、防衛研究所副所長から着任した。着任式において、富崎師団長は、全隊員に「二所懸命」を要望し、任務完了への決意を示した。



厳肅な雰囲気の中、巡閲を行う富崎陸将

富崎師団長は、練馬駐屯地に到着後、駐屯地懇話会および第1師団懇話会、砲室において歓迎を行い、殉職隊員に哀悼の誠を捧げた。続いて儀仗隊による栄誉礼を受け、普性による挨拶を受け、普性、練馬駐屯地駐在所の執り行われた。

富崎師団長は、練馬駐屯地において、師団全隊員に対し訓示を述べた。「我が国を取り巻く安全保障環境が厳しさを増している現状に言及し、「戦争を起さざることを目的とする」と述べ、各級指揮官に対し、創意工夫をもって部隊を練成し、士気旺盛で団結強固な部隊の育成を要する」とともに、全隊員に対しては「二所懸命」を要望し、「それが自己の任務と役割を理解し、それを命がけて全うせよ」と述べた。

堺前師団長 離任



隊員から見送りを受ける堺陸将

堺前師団長は2月5日、師団長交代に伴う離任行事に臨んだ。堺前師団長は令和7年8月に第42代師団長として着任以来、任務完了を第一に各部隊の精強化に努められ、首都防衛の重責を担った。師団の育成に尽力した。離任にあたり駐屯地を後にする堺前師団長には、隊員一同見送りを実施し、感謝と敬意をこめて見送った。

強固な育成を掲げ、「あらゆる任務を完了し、国民の負託に応え得る師団の確立を目指す考えを述べた。また「今現任も戦争を起させない戦いに挑んでいるとの認識を持ってほしい」と述べ、各級指揮官に対し、創意工夫をもって部隊を練成し、士気旺盛で団結強固な部隊の育成を要する」とともに、全隊員に対しては「二所懸命」を要望し、「それが自己の任務と役割を理解し、それを命がけて全うせよ」と述べた。

最後に富崎師団長は、隊員諸君の先頭に立ち、ともに精進で、明るく風通しの良い師団を築いていきたい」と述べた。

一刻も早い鎮火と安全確保へ

各部隊・関係機関と連携 空中消火及び連絡員派遣



写真④：12ヘリのCH-47Jによる空中消火活動を統制する1飛ヘリからの撮影
 写真⑤：夜間整備を行い翌日の活動に備える写真⑥：現地調整所の現地確認を行う副師団長



令和7年12月1日から令和8年1月にかけて、神奈川県、山梨及び静岡で相次ぎ発生した野火に対して、各自治体からの要請を受け、師団は第34普通科連隊及び第1飛行隊を派遣するとともに、第1ヘリコプター団、東部方面航空隊、第12ヘリコプター1隊、東部方面混成団、第4施設群、東部方面特別連隊と連携した災害派遣活動を行い、早期鎮圧に向け一丸となって取り組んだ。

最大4機態勢での散水状況の中、昼夜を問わない消火活動を継続的にを行い、21日には自治体での対応可能と判断されたことにより撤収要請が出され活動を終了した。

1月17日、静岡県藤枝市の山林で火災が発生し、県からの災害派遣要請を受け、34普通科連隊及び現地調整所に連絡員を派遣するとともに、CH-47Jと連携しながら早期鎮圧を目指して活動し、23日に自治体からの撤収要請を受けて活動を終了した。

これら一連の林野火災対応では、陸自の航空機による空中消火活動が重要な役割を果たすと同時に、関係機関と連携した総力の支援が行われた。師団は今後も地域住民の安全確保と災害被害の軽減に向け、迅速かつ的確な対応に努めていく。

日向山火災 12月9日、神奈川県伊勢原市の日向山で林野火災が発生し、10日に師団は神奈川県知事から災害派遣要請を受け、1飛及び第12旅団隷下の12ヘリ隊のヘリが空中消火を実施した。

山梨県上野原市 1月8日、山梨県上野原市雨山で林野火災が発生し、同日夕方、山梨県から災害派遣要請を受け、師団は1月9日から空中消火活動を実施し、1飛、12ヘリ及び1ヘリ隊の最大4機態勢で消火支援を行った。

神奈川県伊勢原市 1月11日に伊勢原市で発生した林野火災について、鎮火に至らない状況から同日に災害派遣要請が出された。1ヘリ隊と12ヘリ隊が空中消火活動を行い、東部方面航空隊を県庁より4機派遣し、夜間調整所を支援した。

13日には自治体からの撤収要請が出され活動を終了した。

日向山火災 12月9日、神奈川県伊勢原市の日向山で林野火災が発生し、10日に師団は神奈川県知事から災害派遣要請を受け、1飛及び第12旅団隷下の12ヘリ隊のヘリが空中消火を実施した。

山梨県上野原市 1月8日、山梨県上野原市雨山で林野火災が発生し、同日夕方、山梨県から災害派遣要請を受け、師団は1月9日から空中消火活動を実施し、1飛、12ヘリ及び1ヘリ隊の最大4機態勢で消火支援を行った。

神奈川県伊勢原市 1月11日に伊勢原市で発生した林野火災について、鎮火に至らない状況から同日に災害派遣要請が出された。1ヘリ隊と12ヘリ隊が空中消火活動を行い、東部方面航空隊を県庁より4機派遣し、夜間調整所を支援した。

13日には自治体からの撤収要請が出され活動を終了した。

第12旅団

即応力の発揮 相次ぐ林野火災に対応



火点を確認する機上整備員（群馬県富岡市）

旅団は令和7年の間、5件の林野火災に12月8日から令和8年1月28日まで群馬県内における林野



取水点で汲み上げるCH-47（群馬県桐生市）

火災は3件であり、関係機関との連携を図り群馬県知事から旅団長に空中消火活動に係る災害派遣要請を受け、旅団は速やかに各地域の隊区部隊から連絡員を現地対策本部に派遣し情報収集を行った。12月11日には、桐生市梅田町、1月25日から27日までの間は、藤岡市上野町への林野火災への空中消火を実施した。空中消火は火点への迅速な進入、正確な投下、地上部隊との連携によって、効果的な消火活動を実施し被害の最小化を図った。また県外において、令和7年12月11日から12日、神奈川県伊勢原市でC/H-47が活動するとともに、令和8年1月9日から21日の長期にわたる空中消火活動を出発した。相次ぐ林野火災に対応した。



現地対策本部で調整する12後支隊員（群馬県藤岡市）

旅団は近年頻発する林野火災に迅速かつ的確に対応するため、部隊の即応性、指揮統制能力及び関係機関との連携強化を図り、引き続き対処能力の向上にまい進する。



各部隊長とともに祈願達磨に目入れを行う旅団長

令和8年始動 各部隊の訓練始め

令和8年を迎え、旅団年をスタートさせた。各部隊は、決意を新たに訓練始めに先立ち、旅団長は年頭の誓いで、隊長とともに、訓練の安全を祈願して、達磨の目入れを実施した。各部隊の訓練始めは、駆け足（司令部付12後支隊及び12施設隊）、戦術ドッジボール（30普連中）、除雪（30普連中）、重迫中、ガ普通連1中、重迫中、ガ向を凝らした訓練を始めを実施した。旅団は令和8年も旅団長を核として士気・団結の強化を図る。



戦術ドッジボール（30普連）



水缶リレー（13普連）



綱引き大会（12後支）

各駐屯地で二十歳の集い 決意を新たに門出を祝う

旅団隷下部隊は晴れた成人の目を迎えた。1月中旬、各駐屯地、相馬原・高田・松本・新発田・新町において二十歳を祝う会を行った。各駐屯地では、地方協力団体等を来賓に迎えて隊員は社会人としての自覚と抱負を新たに誓い、相馬原駐屯地では、隊員一人一人が強い書き初めを実施し意気込みを示した。



相馬原駐屯地



高田駐屯地



不発弾を識別する隊員

旅団は令和7年12月2日から5日までの間、相馬原演習場爆破訓練場において令和7年度不発弾等処理技能者（練成）集訓を実施した。本訓練は、旅団の不発弾処理能力の維持・向上を図ることを目的とし、不発弾の機能・構造、不発弾の処理要領、関係法規及び安全管理についての知識を認識させるとともに、爆破処分要領の技術を指導し向上させた。参加した隊員は、アイスの確行、雷管の指向性の向きなど、「基本基礎」と安全管理を意識して、無事に完備することができたと話した。旅団は今後も不発弾処理技能者の識能向上に務めていく。



松本駐屯地



新発田駐屯地



新町駐屯地

東部方面混成団

地域社会との繋がりを強化 生活体験で学ぶ「救う」現場

第31普通科連隊は12月2日から4日までの間、部隊学校に対し隊内生活体験支援を実施し、生活体験は神奈川県横浜市に所在する湘南医療福祉専門学校救急救命科1学年の生徒28人に対して行ったもので、当校に対して武山駐屯地では今回初めて行うとのことだった。

3日間わたる体験は、連隊長による自衛隊の活動を伝える部隊講話から始まった。その後、分隊教練をはじめ、ベッドメイクなど自衛隊の生活行動を体験させるとともに、チームビルディングと称した絵しりとり



担架搬送の要領を学ぶ学生



力を合わせ傷病者搬送を体験する学生

なかでも傷病者を救出する救急法体験では、4人で息を合わせ成人男性の搬送体を行い、「一人の重さ」を改めて実感し、人命救助には知識のみならず一定の体力も必要だと実感した。また、学生は生活体験を振り返り、「自衛隊の救命士と一般の救命士の違いを学べました。また災害発生時など緊急の場面において、準備など互いに助け合うことができると学びました」と「自衛隊の厳しさ」とも学生から聞かれ、将来

の職業の選択肢としても、自衛隊に対し熱的な声が寄せられた。生活体験を支援した部隊は「生活体験を通して、生徒間の絆が醸成され、自衛隊の活動への理解向上に加え地域社会とのつながりや信頼関係の構築につながった」と達成感を語った。

東部方面混成団 公式Xはこちら！
陸上自衛隊(東部方面混成団)公式
@eastselfdefenseforce
たくさんフォローお待ちしています！

CSM課程空挺研修



跳出塔を研修する隊員



各国の国旗を掲げる空挺隊員

第17教育大隊第18挺団の研修では旧からの期最先任・級曹課程に空挺作戦歴史を学ぶと加中の隊に対し、第一空にも、現空挺隊への下訓練の研修を行った。「令和8年年度下訓練」の研修は、研修は訓練予日に行き、習熟野出地空に、空挺団が艦部

に侵攻し敵を同盟・同志軍軍と連携し空挺作戦及びヘリボン作戦より撃破、地域展開する歴史を研究し、「精鋭化」を自らの当りし、曹を指導する責任を考慮した。研修は、空挺団が艦部

新たなスタート 二十歳の抱負

2026年、混成団では5人の若き隊員が二十歳を迎える。今年には31普通連の5人が二十歳を迎える自衛官として、これからの抱負を述べた。

◆第1中隊
【陸士長 中村天良 (なかむら たかひろ)】
人生において一つのゴールであり、新たなスタートを迎えました。10代を終え、20代の自分へと生まれ変わり、社会人としてこれまでの出会いに感謝し、これからは自衛隊人生を歩んでいきます。

◆第2中隊
【陸士長 村山大 (むらやま ひろ)】
自衛官として今まで以上に自覚と責任を持ち、日々の訓練に真摯に取り組みます。心身を鍛え、仲間と助け合いながら成長し、立派な陸曹になり、任務を確実に遂行できる隊員を目指します。

◆第3中隊
【陸士長 谷口 隼 (たにぐち はやぶ)】
自衛官として規律を守り、責任を果たします。笑顔と元気を忘れず挑戦し、親への感謝を胸に、仲間を大切にしながら任務に尽力し、信頼される自衛官を目指します。日々努力を重ね、心身ともに精進し自衛官を目指します。

◆第4中隊
【陸士長 井上 龍聖 (いのえりょうせい)】
自身を見直し、今までの行動及び考え方を改めて、反省点を改善し、より成長できるように努力いたします。引き続きのご指導宜しくお願い申し上げます。

◆第5中隊
【陸士長 谷口 隼 (たにぐち はやぶ)】
自衛官として規律を守り、責任を果たします。笑顔と元気を忘れず挑戦し、親への感謝を胸に、仲間を大切にしながら任務に尽力し、信頼される自衛官を目指します。日々努力を重ね、心身ともに精進し自衛官を目指します。



人事部長説示



地本広報官による教育



総合実習



グループ実習(魅力の訴求)



駐屯地司令 6 施隊長 視察



新潟地本長所見

課集募人事総監部 募集ニュース

採用広報官集合教育

東部方面隊は令和7年12月1日及び5日、高田駐屯地において採用広報官集合教育を実施した。採用広報官集合教育は、各部隊の採用広報に関わる要員に対して採用広報の概要を教育し、各部隊の主体的な採用広報の取り組みをより効果的にするとともに、自衛隊の魅力をもっと語ることで、採用広報官を育成することを目的に実施したものであり、各部隊等の中隊長、先任中隊長、広報官及び広報官に興味がある隊員等17人6

施設群7人・2普連10人が参加した。教育は総監部募集課及び新潟地本の広報官が指導となり、各人の経歴等を踏まえ、自衛隊及び自衛官の魅力を再認識させ、参加者からは「自衛隊等の魅力について分祈するとともに、新たな魅力を募集対象者に伝えることを着眼とした」広報官としての役割を引き続き各駐屯地において本教育を実施し、自衛隊・職種の魅力を募集対象者等に自信をもって語り、部隊の主体的な募集活動で活躍できる隊員を育成していく。

静岡地本

女性が気軽に相談できる場を 1day女性だけの募集案内所



和やかな雰囲気で行われた懇談

自衛隊静岡地方協力本部（令和7年12月19日）で、1day女性だけの募集案内所を開催した。

これは、女性の入隊予定者や志願者、保護者を対象に、女性自衛官が説明や懇談を行うことで入隊への不安解消や理解促進を図るもの。同イベントは昨年、2回目の開催で、午前の部には12人、午後の部には5人が参加した。

まず女性自衛官が、入隊までの流れや準備、自衛官の処遇改善などについて説明し、陸上自衛隊女性教育隊の様子を動画で紹介した。

懇談では陸海空の女性自衛官が参加者とテーブルを囲み、飲み物やお菓子を手に、砕けた雰囲気

埼玉地本

予備自衛官補への期待の高まり 13人に辞令書を交付



自衛隊埼玉地方協力本部は令和7年12月20日、同年12月18日付で採用された予備自衛官補13人（技能者、一般7人）の辞令書交付式を実施した。

本部長は訓示で、我が国を取り巻く厳しい安全保

する質問があり、女性自衛官が同性の視点から、服装や持ち物の選び方、各職種の特徴などについてアドバイスをした。

懇談後も個別で相談する参加者の姿が多く見られ、女性自衛官が気兼ねを設け、入隊者や志願者のサポートに努めていることとなった。

予備自衛官室が予備自衛官の教育訓練の概要や、今後の行われる教育訓練への出頭要項などの説明を実施して、訓練出頭に向けての不安の払拭、訓練出頭意欲の向上、予備自衛官等制度への理解促進を図った。

埼玉地本は今後も予備自衛官補が予備自衛官任用に向けて安心して訓練に出頭できるよう丁寧に、サポートを続けていく。

東京地本

インターンシップに協力 高校生から職業インタビュー



救急法体験をする高校生

自衛隊東京地方協力本部北地域事務所は令和7年11月12日から14日まで

の間、板橋区内に所在する都立高等学校の学生6人を対象にしたインターンシップに協力した。

同校は全国で初めて都市防災技術科を設置して、1・2年生を対象に、防災に関する実体験（探究実習）に力を入れている、今回のインターンシップでは、12月13日の2日間について

は、練馬駐屯地の協力を得て、第1師団の概要説明、基本教練、ロープワーク、体力検定、体験救急法、史料館見学など多岐にわたる体験を実施することができた。

また、駐屯地司令との懇談も行われ、学生たちは理解の一層の深化を図っていく。

北地域事務所は今後も学校側と連携を深め、学校教育や説明会等を通過で、自衛隊に対する理解の一層の深化を図っていく。

群馬地本

自衛隊イメージアップへ第一歩 高校生が職場体験

自衛隊群馬地方協力本部前橋募集案内所は令和7年12月9日、新町駐屯地の生徒30人に対して職場体験を行った。

職場体験ではまず所長による職業力アップで「自衛官」という職業について知ってもらい、処

遇改善による給与・手当等の引き上げ、生活・勤務環境の改善について説明したほか、所長兼案のレベルの高さを実感してもらった。

午後の実習では学校から要望のあった「AEDの取り扱い」及び「圧迫止血法の実習を行った。

参加した生徒からは「ダンスや自衛官の対応決まるとも楽しく取り組めた」「災害に備えることの大切さや自助・共助・公助の大切さを学べた」との感想があった。

前橋募集案内所は引き続き学校からの要望に応えつつ、自衛隊の活動に対する理解と魅力発信、募集基盤の拡充に努めていく。

栃木地本

サテライトブースOPEN 毎日変わるコンセプト



説明を受ける学生
実施の日と、ミーティングがコンセプトに合わせた内容で来場者を楽しませている。特にオープン

自衛隊栃木地方協力本部は12月13日から19日の間、JR宇都宮駅に隣接するトナリエ都宮一階で、第2回目となる栃木地本のサテライトブースを開業した。

今回のサテライトブースは「この日の自衛隊」をコンセプトに掲げ、「地本紹介」「陸上自衛隊」「海上自衛隊」「航空自衛隊」「国民の自衛官」「女性自衛官」の6つのブースを設け、幅広い層の来場者に対応できるようにした。

期間中、日替わりイベントを実施するため、毎日来場する学生が多数訪れた。また、抽選会も多数のファン情報やボランティアの募集など、さまざまな成果を得ることができた。

また、抽選会も実施し、抽選会に参加する学生が多数訪れた。また、抽選会も実施し、抽選会に参加する学生が多数訪れた。

また、抽選会も実施し、抽選会に参加する学生が多数訪れた。また、抽選会も実施し、抽選会に参加する学生が多数訪れた。

また、抽選会も実施し、抽選会に参加する学生が多数訪れた。また、抽選会も実施し、抽選会に参加する学生が多数訪れた。

茨城地本

いばらき音楽フェスティバル 地本隊員による演奏も



募集案内所の海上自衛官による演奏の様子
演奏の様子

自衛隊茨城地方協力本部は1月18日茨城県防衛協会が主催する「いばらき音楽フェスティバル」に参加する「自衛隊いばらき音楽フェスティバル」を開催した。

開演前に前座として、水戸募集案内所の女性海上自衛官3人が「サードパイプ」を演奏し、透き通る音色を奏でた。観客席からは初めて聞いた「すこいさ」などの声も聞かれた。

また、陸上自衛官2人による「起奏」や「起奏」などの演奏も実施された。茨城地方協力本部は今後も音楽を通じて自衛隊の活動を広く知ってもらえるよう、部隊や協力団体と連携し広報活動を実施していく。



職業力アップで「自衛官」という職業について知ってもらい、処

職場体験ではまず所長による職業力アップで「自衛官」という職業について知ってもらい、処

職場体験ではまず所長による職業力アップで「自衛官」という職業について知ってもらい、処

職場体験ではまず所長による職業力アップで「自衛官」という職業について知ってもらい、処

職場体験ではまず所長による職業力アップで「自衛官」という職業について知ってもらい、処

職場体験ではまず所長による職業力アップで「自衛官」という職業について知ってもらい、処

職場体験ではまず所長による職業力アップで「自衛官」という職業について知ってもらい、処

